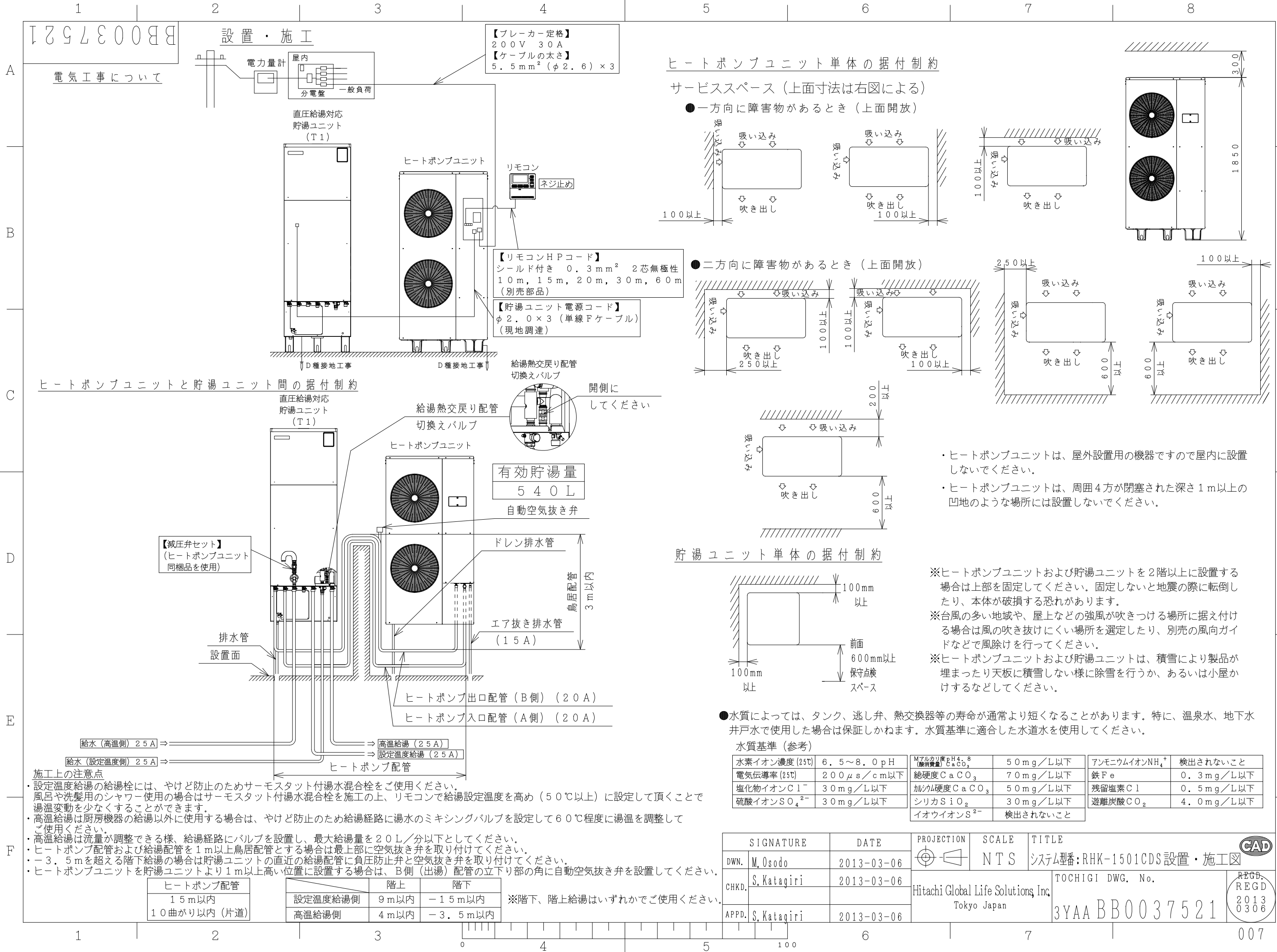
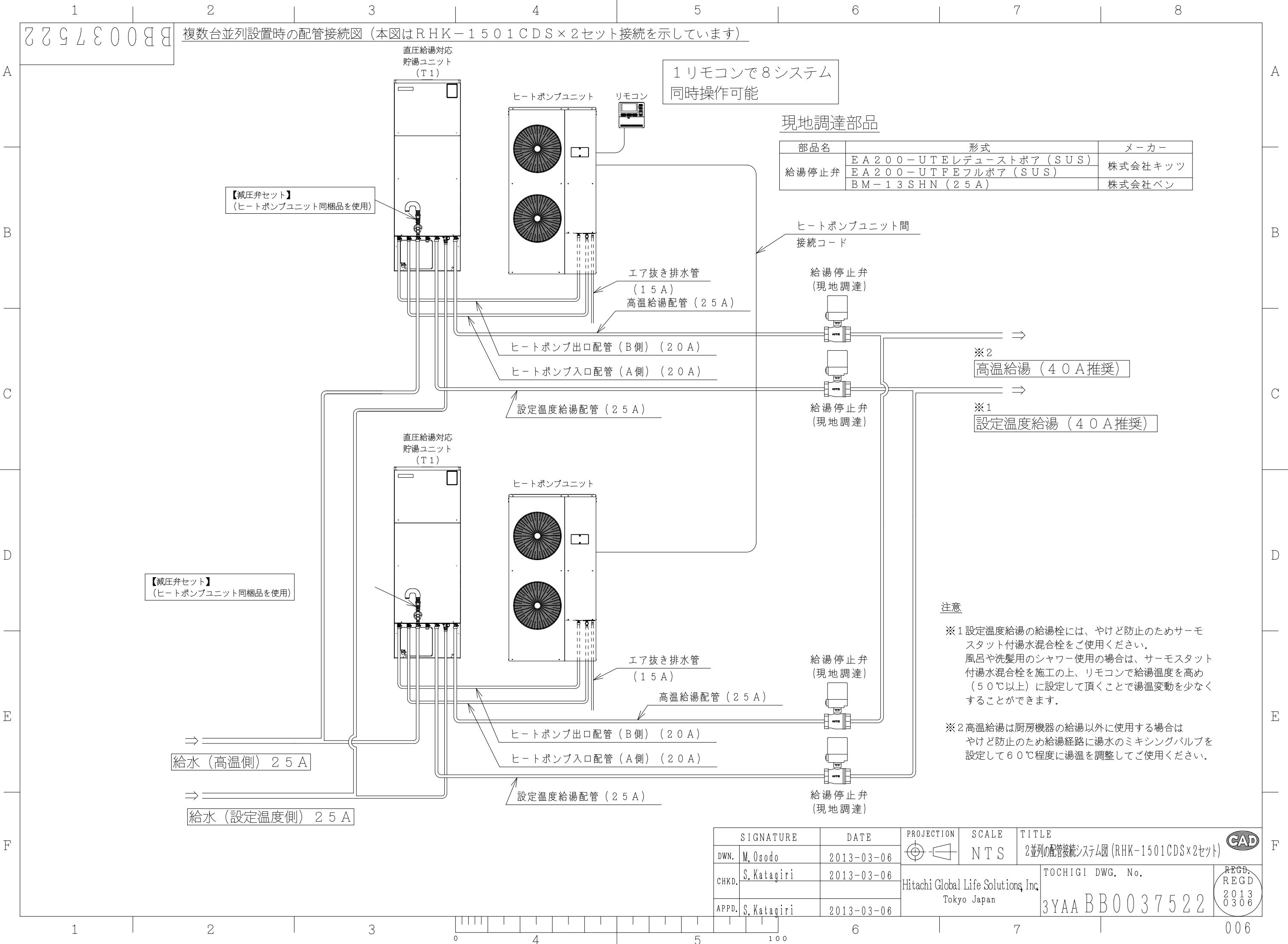
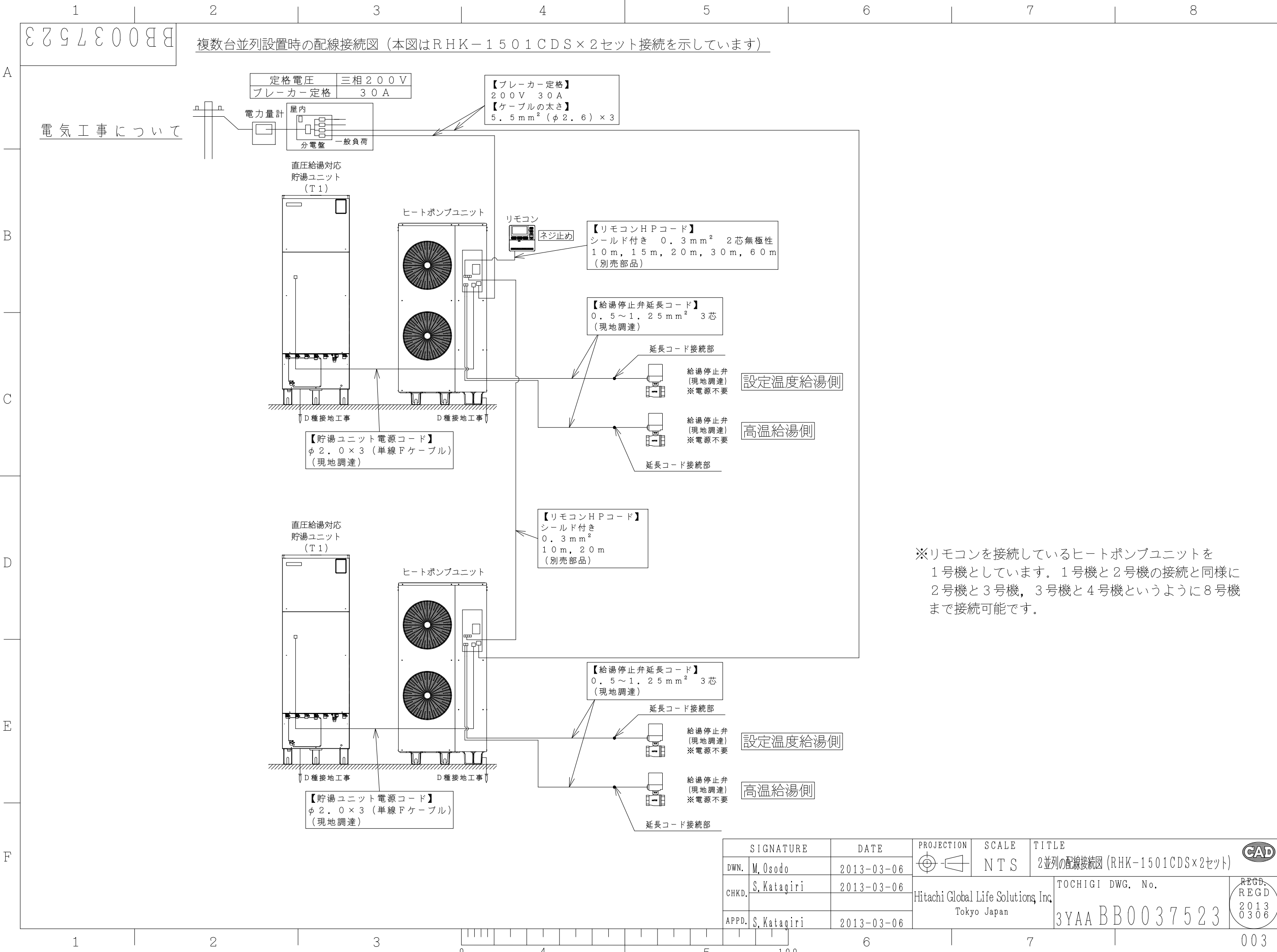








井水対応時（膨張タンク）設置施工図

井水対応には下記対応が必要です。

●膨張タンクを必ず取り付けてください。

（推奨品 日立金属製 ST-42V（封入圧100kPaと指定してください。））

●減圧弁は85kPa仕様品（別売部品 RHKGA85-2）を取り付けてください。

●使用する水は飲料水の基準に適合し、下記の水質基準範囲内でご使用ください。

水素イオン濃度（25℃）	5.8～8.6pH	シリカ SiO ₂	50mg/L以下
電気伝導率（25℃）	700μs/cm以下	イオウイオン S ²⁻	検出されないこと
塩化物イオン Cl ⁻	100mg/L以下	アンモニウムイオン NH ₄ ⁺	検出されないこと
硫酸イオン SO ₄ ²⁻	50mg/L以下	鉄 Fe	0.3mg/L以下
Mアルカリ度pH4.8（酸消費量）	75mg/L以下	銅 Cu	1.0mg/L以下
総硬度 CaCO ₃	200mg/L以下	残留塩素 Cl	1.0mg/L以下
カルシウム硬度 CaCO ₃	150mg/L以下	遊離炭酸 CO ₂	30mg/L以下

膨張タンク施工時の注意点

警告

●施工時

●使用時

注意

●施工時

膨張タンクは基礎、架台等へ確実に固定する。また、転倒防止のため、アンカーボルト等にて確実に固定する。
（耐震1.0G以上の要求の場合は上部固定が必要となります。）
吊り下げて設置する場合は固定金具等で固定する。
膨張タンクが転倒し、部品が飛散したり温水が吹き出し、重傷を負う恐れがあります。

●膨張タンクは、屋内設置仕様です。屋外に設置する場合には、屋外塗装仕様品を指定するか、あるいは防水（雨じまい）防錆等の処置を必ず行う。腐食等により、温水が吹き出し、重傷を負う恐れがあります。

●膨張タンクの「空気圧調整弁」の周囲は、600mm以上の空間を必ず取る。また、タンク上部には配管およびダクト類を通さない。
膨張タンクの整備、取替えができません。

正面設置スペース

平面設置スペース

●システム配管の水圧試験時には、「メンテナンスバルブ」を閉じて膨張タンクへ圧力をかけない。
膨張タンクにシステム配管の水圧試験圧力がかかった場合、ダイヤフラムが破損する可能性があります。

●膨張タンクおよび接続配管が、凍結する恐れのある場合は必ず保温工事を行う。
膨張タンクを保温する場合は、空気圧調整弁、銘板またはシールが点検時に外部より点検できる様に施工してください。
凍結した場合、配管が破損する恐れがあります。
（タンクの保温は16K以上のグラスウール+ラッキングとしてください。）
接続配管には、タンク接続口まで配管ヒータを取り付けるなどの処理をしてください。

●施工時には、配管の接続を間違わない。
誤った箇所へ接続されますと製品が機能しません。

●膨張タンクへの配管接続は、「フレキシブルジョイント」「メンテナンス用バルブ」「水抜き用バルブ」を必ず取り付ける。

●使用時

1年以内ごとに1回の定期点検を必ず行ってください。

施工上の注意点

●井水使用の場合は、高温給湯は使用できませんので、封止キャップ（現地調達）で塞ぎ、配管接続しないでください。
（但し、設定温度給湯・高温給湯用の給水は共に接続してください。）

●設定温度給湯の給湯栓には、やけど防止のためサーモスタット付湯水混合栓をご使用ください。
風呂や洗髪用のシャワー使用の場合は、サーモスタット付湯水混合栓を施工の上、リモコンで給湯温度を高め（50℃以上）に設定して頂くことで湯温変動を少なく することができます。

●ヒートポンプユニットと貯湯ユニットと膨張タンクの高低差は1m以内に設置してください。

●ヒートポンプユニットB側配管は施工の際、上図のように立ち上げる必要はありません。

施工後の試運転

●施行後、必ず試運転を行ってください。（沸き上げ温度90℃、沸き上げ量100%）

●沸き上げ完了後、貯湯ユニット（T1）の逃し弁よりエア抜きを行ってください。（数秒間）
（ゴボゴボ音がしたり、水が断続するような場合はエア抜きが終了していません。）

※エア抜きを行わないと、給湯ポンプがエア噛みを起こす恐れがあります。

37933

BB003

003